

ろ

ろ 紹(名)

舌音にして單子音の一つ。

薄く透通るやう織りにたる絹地の名。○生

紹「練紹」紹の羽織

ろ 艘(櫓)(名)

船を押し進む道具。中程より繼ぎたる長

き棒にて其下部の方は平たく水を掻くに都合よく爲りたるもの。○艘を漕ぐ「艘を押す」艘をあやつる

さも。○舟の後の處。○軸體相ふくむ

ろ 爐(名)

ろ 爐(名)

床を切りて火鉢のやうに作りたる處。●圍爐裡。○爐を切る「爐を開く」

ろ 廬(名)

ろ (助)

いほり。●假小屋。○草廬

詞の音調に意味なく添へたるもの。「一」名

詞の後に添ふる。○「嚴ろ」尾ろ「二」形容

詞の後に添ふる。○「尊きろかも」樂しきろ

かもし

ろいろ

蠟色(名)

黒漆にて塗りたる上を更に磨き光を

出だしたるもの。

ろば

驢馬(名)

馬の種類。うさぎうま。

ろばん

露盤(名)

塔の頂上に直立して輪を貫きたるが

ろほ

ろばう

ろべそ

ろどん

ろどう

ろぢ

ろぢぢ

ろがんせき

ろかす

ろよう

ろだい

ろれつ

ろれつ

ろれつ

ろさう

ろぞく

如き銅の柱。

鹵簿(名)

行幸の行列。●みゆきのつら。

路傍(名)

路のほさり。●路ばた。

艣舳(名)

舟端に突出して艣の嵌まるころ。

魯鈍(名)

おろか。●馬鹿。

路頭(名)

路のほさり。●路はた。●路傍。○

路地(名)

「一」門内または庭などへの狭き通路。

路地口(名)

路地の入口。

爐甘石(名)

礬物の名。炭酸亜鉛。

爐滓(名)

ろつばにて溶解せし金銀の滓。

路用(名)

旅路の費用。●路銀。●旅費。

露臺(名)

「一」床のみ有りて屋根のなき處。「二」古へ禁中にありたる建物の名。○「仁壽殿の露臺」

臚列(名)

つらぬる事。●ならぶ事。

呂律の轉。◎物を言ふ調子。○「ろれつが廻らぬ」

弄槍(名)

雅樂の曲名。

蘆粟(名)

砂糖の採る植物の一種。近來支那

より來りしもの。

ろなは

繩(名)

舟に繩を結び附くる繩。

ろなう

(副)

論無くの音便。○無論。●勿論。○蜻蛉「ろなう左様にあらん」

ろん

論(名)

議論。●あげつらひ。

ろんば

論破(名)

論じて他の説を破る事。●説破。△

ろんばん

論判(名)

論じて理非を判決する。

ろんぼふ

論法(名)

論理學。●論理學上の議論法。

ろんぼふ

論鋒(名)

議論の鋒先。○議論の向ふところ

ろんり

論理(名)

論理學に同じ。又論理學上の眞理。

ろんりほふ

論理法(名)

論理學上の議論法。

ろんりがく

論理學(名)

事物の理を正しく述ぶる手段の學問。

ろんだん

論壇(名)

公衆の前にて論を述ぶる場所。●

ろんなし

論無し(形。形狀言ク活)

無論。●勿論。○更

ろんぐわい

論外(名)

言ふことも出來ぬ程の事。△(形)

論外の。(副)——論外。(又)——論外に。

ろんぶん
ろんぎ

論文(名)

論説を書きたる文章。

論議(名)

「一」議論。●闕論「二」佛書の文章を討議回答する事。●法問。○源氏「法師はらのある限り召し出で、論議せさせて聞きしめさせ給ふ」

「三」謡曲にて二人問答の如く代り々に語ふ處の稱へ。○「地汲むや心も潔き。加茂の川瀬の川上は。いかなる處なるらん。シテいつくさか。岩根松が根しのぎくる。瀧つ流れは白玉の音ある水や。貴船川」

ろんせつ

論説(名)

論と説と。●論。●説。

ろんず

論(他動サ變)

議論する。●あげつらふ。

ろう

樓(名)

高殿。●二階。○「樓に登る」樓を下る「二」か。○「二」武家にて牢の字に代用。

ろう

籠(名)

……其實と共に文字まで不吉なる感あれ

ばなり。○「籠者」「入籠」

ろう

籠(名)

おぼろ。

ろう

陋(名)

いやしき事。

ろう

漏(名)

水時計。……それより轉じて時刻の事に用ふ。○「漏刻」

らう

牢(名)

罪人を籠め置く家。●檻獄。●獄屋。

ろなわ

勞(名)

功勞。●功績。●骨折。(雅)

老(名)

「一」おい。●年さる事。○「老を嘆く」「二年より。●老人。○「老を扶く」

廊(名)

廊下。●細殿。○「中門の廊」「廊の遣戸」(雅)

糧(名)

うて。○「兵糧」
なみ。○「波浪」「濁浪」

狼(名)

獸の名。おほかみ。○「虎狼」「豺狼」

郎(名)

「一」男。……男の名には古來此字を附くる事多し。たさへば五郎。十郎。又太郎。平八郎の類。「二」夫。●戀ひ慕ふ男。

靈(名)

りやうの轉。●たましひ。●生靈。●死靈。○源氏「大臣の御靈」「女の靈」

領(名)

領分。●領處。●領地。●所有物。

蠟(名)

「一」漆、蜂の巢などより取りて蠟燭に造るもの。「二」蠟燭の略。○「百目蠟」「お蠟」

鐵(名)

金屬を溶解したるもの。○「銀鐵」「真鍮鐵」

臘(名)

十二月の異名。○「舊臘」「臘月」

ろふ

藹(名)

官吏僧徒等の階級を云ふに用ふる詞。今

ろろう

朧々(名)

日の高等官などいふ等の字に似たり。○「上藹」「中藹」「下藹」「一藹」
おぼろ／＼としたる事。●月の霞みたるさま。△(形)朧々たる。(副)朧々こ。(又)一臘々として。

らうらう

浪々(名)

おちぶれたる事。●流浪。○「浪々の身」

らうろう

牢籠(名)

牢に同じ。苦惱。●困苦。●騒ぎ。◎押し籠めて苦しめるの意より出でたる詞にや。

らうろう

牢籠(名)

○盛衰記「佛法の衰微王法の牢籠」同「朝家の御嘆き天下の牢籠」△(動)牢籠す。○盛衰記「人民牢籠して」源氏「宮仕の筋にらうろうせんと思しおきつる」(形。形狀言シク活)「一」勞々じの意。◎功者ら。●物に馴れて。●經驗に富みて。○落窪「書を見給ふにもささくらうくじく」「二」良々じの轉。心にても形にても良きを云ふ。○紫日記「容體もてなしらうくじくをかし」

らうらうじ

ろうは

綠黴(名)

鐵物の名。硫酸鐵。りよくばんに同

じ。

老婆(名) 老女。●婆々。

狼狽(名) あわてる事。●周章。

臘梅(名) 灌木の名。黄色にて梅に似たる香の花さくもの。◎臘月に咲く故に此名あり。

牢拂(名) 牢屋の罪人を放免する事。

老婆心(名) 過度の深切。●思ひすぎ。

浪人(名) 浪士に同じ。

老若(名) 老人と若者。○「貴賤老若」「老若男女」

老舖(名) 古くより開きたる店。●しにせ。

老母(名) 老年の母。

勞動(名) 力を以て働く事。

郎等。郎黨(名) 男の家來。●なのこ。家の子。

朗讀(名) 文章を聲高く読みあぐる事。△(動) 朗讀す。

漏斗形(名) じょうこなりの形。朝顔の花

なごの類。

老女(名) 大名の侍女の老役。

老中(名) 徳川時代の職名。執政の重大なる

役。……老中の首座を大老と云ふ。○「御老中」

勞力(名) 骨折。●はたらき。

牢脱(名) 牢屋を脱け出づる事。●脱獄。

廊下(名) 板椽つたびに往來する室と室との道路。●廊。●細殿。

勞咳(名) 病の名。●勞症に同じ。

(形。形狀言シク活) らうは亂の轉。亂りがはしの意。●亂雜なる。●取り散らしたる。●むさくるし。○源氏「らうかはしき大路」同「らうかはしき心地」

老眼(名) 老衰の眼。

樓閣(名) 高殿。●樓に同じ。○「宮殿樓閣」

「空中の樓閣」

老體(名) 老人の身。

樓臺(名) 樓に同じ。

壘斷(名) 獨にて専有する事。△(動) 壘斷す。

(自動下二段) 女の姿の長じて美しくなりゆくを云ふ。……もこはらうたきうたしなど形狀言ク活に活用する詞なるを。馬琴が

らうたぐ

らうたい

らうたん

らうがはし

らうがはし

らうがはし

らうたし

動詞に用ひて藹闇の字を當てたるより小説家などの用ふる詞となれり。○「伏姫二八になり給へばいよくますくろうたけて」

らうのこし 籠絡(名) 人を我手中の物にする。●人を我意の如くならしむる。△(動)―籠絡す。
らうくんにし 牢輿(名) らうくんに同じ。
らうくんし 郎君(名) 夫の君。●殿御。
らうぐし 老君子(名) らうぐしに同じ。

(形。形狀言ク活) 「一」愛らし。●かわゆらし。○源氏「女君ありつる花の露にぬれたる心地してそひふし給へるさま美しうらうたけなり」 「二」かわいそうな。●氣の毒な。○空穂「兼頼をもめし入れぬ。らうたしと思ふものなり」。

らうや 牢屋(名) 牢に同じ。
らうや 老爺(名) 「一」老年の父。「二」老人。●おやち。
らうや 廊下(名) 廊下の屋根。(源氏)

らうれん 老練(名) 老功。●熟練。●手だれ。●上手。
らうさう 弄槍(名) 雅樂の曲名。
らうさう 緑衫(名) ろくさんの轉。◎緑色の袍。……

らうまけ 羅馬教(名) 基督教舊教の一派。●天主教。◎教會の主腦者法王は以太利國羅馬府に居る故に此名あり。
らうまじ 羅馬字(名) 現今歐羅巴にて用ふる文字。
らうまじ 羅馬數字(名) 普通時計の面に記しある

らうそく

老足(名) 老人の歩み。○謡曲「老足なりとそ急かせ給へ」

らうけ 老氣(名) 老病。(源氏)
らうけ 臘月(名) おぼろの月。●霞みたる月。●春の月。○謡曲「臘月のうすぐもり」

らうそく

蠟燭(名) 蠟より造りて火を燭すもの。
らうそく 蠟燭立(名) 蠟燭を立て置く道具。●燭臺。●手燭。

らうけつ 老病。(源氏)
らうけつ 臘月(名) 十二月の異名。

らうそく

老足(名) 老人の歩み。○謡曲「老足なりとそ急かせ給へ」

らうそく 老病。(源氏)
らうそく 臘月(名) 十二月の異名。

らうそく

蠟燭(名) 蠟より造りて火を燭すもの。
らうそく 蠟燭立(名) 蠟燭を立て置く道具。●燭臺。●手燭。

らうそく 老病。(源氏)
らうそく 臘月(名) 十二月の異名。

らうそく

蠟燭(名) 蠟より造りて火を燭すもの。
らうそく 蠟燭立(名) 蠟燭を立て置く道具。●燭臺。●手燭。

らうそく 老病。(源氏)
らうそく 臘月(名) 十二月の異名。

らうそく

蠟燭(名) 蠟より造りて火を燭すもの。
らうそく 蠟燭立(名) 蠟燭を立て置く道具。●燭臺。●手燭。

らうそく 老病。(源氏)
らうそく 臘月(名) 十二月の異名。

らうそく

蠟燭(名) 蠟より造りて火を燭すもの。
らうそく 蠟燭立(名) 蠟燭を立て置く道具。●燭臺。●手燭。

らうそく 老病。(源氏)
らうそく 臘月(名) 十二月の異名。

らうそく

蠟燭(名) 蠟より造りて火を燭すもの。
らうそく 蠟燭立(名) 蠟燭を立て置く道具。●燭臺。●手燭。

らうそく 老病。(源氏)
らうそく 臘月(名) 十二月の異名。

(副) ろんなくの音便。◎無論。●勿論。○枕「ろうなう苦しと思ふらん」

らうご

老後(名) 老いて後。

らうこう

老公(名) 貴人の老人を尊びて云ふ詞。●御

隠居様。○「島津老公」

らうこう

老功(名) 老年の功。●年の功。

ろうこく

漏刻(名) 水時計。……昔し晝夜の時刻を計るに用ひたる器。

ろうこくはかせ

漏刻博士(名) 漏刻を司る官の名。……中古陰陽寮の中に之を置かれたり。

らうごし

牢輿(名) 囚人を送る輿。

らうごい

朗詠(名) 中古謡物の一つ。詩歌または文章の名句に節を附け雅樂の樂器に合せて歌ふもの。……此文句を集めたる書に和漢朗詠集(藤原公任撰)新撰朗詠集(藤原基俊撰)の二種あり。

らうえいはかせ

朗詠博士(名) 朗詠の節附。

らうてんらく

弄殿樂(名) 雅樂の曲名。

らうあり

勞有(自動ラ變) 「一」勞の文字にて功勞を経たるなどの意。●功者らしくある。●達者にてある。●物事に心得て居る。●萬事に馴れて居る。○空穗「折敷一つにするて遠くより参るにいささかなる過ちせず。男君

たちの御前に立居つかうまつるに。めやす

くらうある童べなり」續世繼「歌などこそい

さらうありてよみ給ふなれ」「二」非情の物

のなつかしく親しまるゝ心にも用ふ。○空

穂「三月節會は花さく咲く時はいさうあ

るはごなり」

諒闇(名) りやうあんの轉。天皇の御忌中。

(榮花)

ろうき

籠居(名) 「一」家に籠り居る事。「二」入牢して

居る事。

らうぎん

朗吟(名) 詩歌など聲高く吟ずる事。△(動)

朗吟す。

らうし

老死(名) 老病にて死ぬる事。

らうし

牢死(名) 入牢中に死ぬる事。

らうし

浪士(名) 封建時代に諸藩の籍を脱せし人。●浪人。○「赤穂の浪士」水戸浪士」

らうし

勞症(名) 病の名。●肺勞。●勞咳。

ろうじ

●肺結核。

籠城(名) 城にたてこもる事。○「熊本籠

城」△(動) 籠城す。

老少不定(句) 老年も少年も

何時死ぬるか定まらざるの意。○謡曲「老

少不定と聞く時は。若き命も頼まれず。老

いたるも残る世の習」

老臣(名) 老功の臣。●重立ちたる家臣。

老人(名) 年寄。●おいびこ。

老人星(名) 南極星の一名。

籠舎(名) 近古以來牢の字を忘れて書き替へた

る文字。●牢舎に同じ。

牢舎(名) 「一」牢屋。●獄屋。「二」入牢。●

入獄。

狼籍(名) らうぜきに同じ。

陋習(名) いやしき習慣。

郎従(名) 男の家來。●郎等に同じ。(正統

記)

老病(名) 老衰により發せし病。

樓門(名) 二階の有る門。

老聾(名) おいぼれ。

牢晴(名) たしかなる晴天。●快晴。

老成(名) おとなぶる事。

樓船(名) 二階のある舟。●屋形船。

蠟石(名) 質柔らかなる礫石。印材その他

の彫刻などに用ふるもの。

狼籍(名) 亂暴。●亂雜。

狼籍人(名) 狼籍をなす人。

狼籍者(名) 狼籍を爲す人。(謡曲)

狼籍者(名) 狼籍を爲す人。

勞(自動サ變) 骨折る。●はたらく。●苦勞す

る。

弄(他動サ變) もてあそぶ。●おもちゃにする。

●嘲弄する。

領(他動サ變) 「一」領する。●所有する。……

有形物を。「二」我物とする。●したいやう

にする。……無形物を。(雅)

論(他動サ變) ろんずの轉。(雅)

老衰(名) 老い衰ふる事。●老後の衰弱。△

(動) 老衰する。

錄(名) 「一」記錄。「二」昔し八省に置かれし官名。

……大錄少錄の二あり。●さくわん。●今

の屬官。○「式部錄」「大藏錄」

祿(名) 「一」中古官吏の賜にりたる給料。……位

の相當に依り賜はるを位祿といひ。特に春

秋二季に賜はるを季祿といふ。……但し金

らうひやびやう
ろうもん
らうまう
らうせい
らうせい
らうじん
らうじんせい
らうし

蠟石(名)

錢を主とするには非ず。「二」徳川時代に大名より家臣に與へたる扶持米。○「家祿」俸祿。「三」昔し貴人より目下の物に授けたる品。●賞與品。●慰勞品。●手當。●かづけもの。「四」昔し貴族同士にて使を受けたる時主人より使者に贈る装束。●かづけもの。

ろく 六(數) むつ。

ろくろ

六位(名) 第六番目の位階。維新前は正六位上、

正六位下、從六位上、從六位下、の四等。今は正六位、從六位の二等。

ろくろ

轆轤(名) 「一」車井戸の釣瓶繩を掛くるところ

「二」傘の支へ骨を集むるところ。「四」以上二種に類似せる形および働を持ちたる器。

「五」ろくろがんの略。

ろくろがな

轆轤鉈(名) ろくろがんなに同じ。

ろくろがん

轆轤鉈(名) 圓形の木地細工を造る道具。

ぐる／＼廻しつけづるやうになりたるもの。

ろくろだい

轆轤臺(名) 圓形の陶器を造る時用ふる臺。

ろくろばん。

ろくろく

碌々(副)

何もせず居る有様。○「碌々日を送る」

ろくろく

(副) ろくにに同じ。

ろくろくび

轆轤首(名)

自在に伸びたり縮んだりする首。……其人の安眠する間に首ひざり長く伸びて他人の聞を窺ひなごする事ありと世俗に妄信せしもの。舌切雀の繪本などぐびぐびと長くぬたりたる首の妖怪をかきたるは是なり。

ろくろく

轆轤細工(名) 轆轤鉈もて造る事。および造られたる品物。

ろくろざり

轆轤錐(名) ろくろがんなに同じ。

ろくろし

轆轤師(名) 轆轤細工をする職人。

ろくろびき

轆轤挽(名) 轆轤細工といふに同じ。○空

碌「ろくろびきの坏」

ろくに

(副) 充分に。……必ず下に打消の詞來る。○ろくに覺えぬ」(俗)

ろくほふ

六法(名) 「一」六種の重要な法律。すな

はち憲法、民法、刑法、商法、民事訴訟法、刑事訴訟法。「二」俳優の花道を引込む時高く足踏して踊りつゝ樂屋に入る術。○「六法を

ろくだう

踏む

六道(名) 生前所行の善惡により死人の分れ

行く六種の世界。すなはち天道、人道、修羅

道、餓鬼道、畜生道、地獄道。(佛教)

ろくだうせん

六道銭(名) 死人を棺に入るゝ時紙など

にて作り之に持たする銭。六道の路に三途

川さいふありて之を渡る時川番の老婆に拂

ふためなりと世俗にいふ。

ろくち

陸地

りくちに同じ。水面ならぬ處。(謡曲)

ろくでうどうふ

六條豆腐(名)

薄く切りたる豆腐に

鹽を加へ陰乾にせしもの。◎もと京都の六

條にて作り出だしたるものと云ふ。

ろくぢさう

六地藏(名)

各分業して六道を能化する六

體の地藏尊。すなはち預天賀地藏、放光王

地藏、金剛順地藏、金剛寶地藏、金剛幢地藏、

金剛悲地藏。

ろくぢん

六塵(名)

人を迷はす六種の塵穢。すなはち

色、聲、香、味、觸、法。(佛教)

ろくぢん

六着心(名)

六種の執着心。すなはち愛、

欲、貪、恚、癡、惡。(佛教)

ろくりやう

祿令(名)

大寶令の一つ。祿の下賜法に

ろくめすびど

關する法令。

祿盜人(名) 俸祿を得ながら其職を盡さ

ぬ人。●素餐。

ろくかい

六界(名) 佛教にて云ふ六つの世界。……六

道を見よ。

ろくツかく

六角(名) 六つの角ある形。

ろくツかく

鹿角(名) 鹿の角。

ろくツかく

鹿角菜(名) 海藻の名。ふのり。◎形つ

つばりて鹿の角に似たる故の名。

ろくツかく

鹿角岩(名) 逆茂木。◎枝ある木を立て

たる樵の鹿の角に似たる故の名。

ろくかせん

六歌仙(名) 古今集の序に載せられたる六

人の歌仙。……在原業平。僧正遍昭。喜撰

法師。大伴黒主。文屋康秀。小野小町。

ろくよく

六欲(名) 六根より起る欲。六塵に同じ。

ろくだか

祿高(名) 徳川時代に大名より賜はりたる家

祿の石高。○「祿高五百石」

ろくそんわうまつり

六孫王祭(名) 六孫王經基の祭禮。

九月十一月京都にてあり。

ろくつう

六通(名) 六種の神通力。すなはち天境通、天

眼通、天耳通、他心通、宿住通、漏盡通。

ろくな

(形)

充分な。……必ず詞を隔て、打消の動詞

来る。○「ろくな事を言はぬ」(俗)

ろくなん

六難(名)

六種の難事。……すなはち一に神

世遇ひ難し。二に正法聞き難し。三に善心
生じ難し。四に中國生れ難し。五に人身得

難し。六に諸根具し難し。(佛教)

ろくぐ

六具(名)

六種の武具。すなはち鎧の胴、小手、

袖、脇楯、腰楯、髀當。

ろくぐわつ

六月(名)

年の六番目の月。●みな月。

ろくくわんねん

六観音(名)

六種の觀世音菩薩。す

なはち千手觀音、正觀音、馬頭觀音、十一面

觀音、准胝觀音、如意輪觀音。

ろくやなん

鹿野苑(名)

印度にて釋迦の佛道を説きた

る土地の名。

ろくまく

肋膜(名)

肋骨に沿ひたる膜。

ろくまくえん

肋膜炎(名)

肋膜の病名。

ろくけいざら

六圭皿(名)

六角形の皿。

ろくけん

祿券(名)

士族の家祿に代へて下附せられた

る公債證書。

ろくふ

六府(名)

六衛府に同じ。

ろくぶ

六部(名)

六十六部の略。◎六十六部の經文を

ろくふ

六腑(名)

漢方醫學にて云ふ人身腹内の六機關。

すなはち大腸、小腸、膽、胃、三膽、膀胱。

ろくこつ

肋骨(名)

あばら骨。脊髓より出で、胸廓

を圍む左右二十四本の骨。

ろくこん

六根(名)

煩惱の入り來る六つの根源。すな

はち眼、耳、鼻、舌、身、意。(佛教)

ろくごん

六言(名)

漢詩の種類。六字にて一句を成す

もの。

ろくこく

六穀(名)

六種の穀物。すなはち稻、粱、菽、

麥、黍、稷。

ろくこくし

六國史(名)

古へ朝廷にて撰ばれたる六部

の國史。すなはち日本紀、續日本紀、日本後

紀、續日本後紀、三代實錄、文德實錄。

ろくお

六衛(名)

六衛府に同じ。

ろくおのつかさ

六衛司(名)

六衛府に同じ。

ろくおふ

六衛府(名)

皇居を護衛する昔の官廳。すな

はち左近衛、右近衛、左兵衛、右兵衛、左衛

門、右衛門の六府。

ろくさ

六齋(名) 〔一〕六齋日の略。〔二〕それより轉じて一箇月の内に六回の定限ある日並を云ふ。一六、二七、三八、四九、五十の類。○「月六齋の休日」

鹿嶋(名) 逆茂木。……ろくさくさいを見よ。六齋日(名) 一箇月に六回物忌請進する日。すなはち八日、十四日、十五日、二十三日、二十九日、三十日は梵天帝釋の國政を觀察する日なりとて中古以來佛法信徒は之を執行せしもの。

ろくさい

ろくさい

緑衫(名) 昔し六位の官人の着せし綠色の袍。ろくさうに同じ。

ろくさん

ろくし

六贊(名) 支那の古代にて行はれたる六種の贈物。すなはち諸侯は皮帛、卿は羊、大夫は雁、士は雉、庶人は鶩、工商は鷄。

ろくじ

六時(名) 〔一〕時刻の名。卯の刻と酉の刻。〔二〕佛法の勅行に云ふ詞。晨朝、日中、日没、初夜、中夜、後夜の六時刻。○源氏「晝夜の六時のつとめに」

ろくじ

六字(名) 六字名號の略。録事(名) 〔一〕記録する事。〔二〕書記役。

ろくじ

ろくし

綠青(名) 綠色を染むる繪具の名。〔二〕錆びたる銅より發する綠色。○「綠青をふく」

ろくじ

六情(名) 喜、怒、哀、樂、愛、惡の六情。

ろくじ

鹿茸(名) 鹿の袋角。新生の鹿角。

ろくし

六勝寺(名) 日本にて勝の字の付きたる六箇寺。すなはち尊勝寺、圓勝寺、成勝寺、延勝寺、最勝寺、法勝寺。

ろくしん

六親(名) 六種の親戚。すなはち父子、兄弟、姉妹、舅姑、婚媾、姻婭。

ろくし

鹿車(名) 鹿の牽く車。……三つの車の處を見よ。(佛教)

ろくし

六尺(名) 徳川時代に大名などの駕籠かく男。六尺棒(名) 六尺の長さの棒。徳川時代に行はれし防禦の具。

ろくじ

ろくじ

六邪臣(名) 支那にて云ふ六種の無道なる臣下。すなはち具臣、諛臣、姦臣、讒臣、賊臣、亡國臣。

ろくし

六識(名) 物事の六根に觸れて生ずる覺識。……すなはち眼識、耳識、鼻識、舌識、身識、意識。(佛教)

ろくしゅ

六趣(名) 六つの惡趣。一六道に同じ。(佛敎)

ろくしゅりき

六種力(名) 身分に應じて護身の方きなる

六種の事物。すなはち小兒には涕泣、婦人には嗔睨、男子には喝道、沙門には忍辱、國王には驕傲、羅漢には精進。

ろくじしう

六獸(名) 六種の野獸。すなはち麋、鹿、狼、兎、猪、麝。

ろくじしゅうふ

六十(數) 「一」十を六つ合せる數。●むそち。「二」六十番目。「三」六十歳。

ろくししんどう

六種震動(名) 佛書に云ふ六種の震動。すなはち形の震動に動起涌の三あり。聲の震動に震吼撃の三あり。

ろくじみやうが

六文字の佛名。 南無阿彌陀佛の

ろくずみ

陸梁(名) 墨繩。

ろけん

露顯(名) あらはるゝ事。●發覺。△(動)―露顯す。

ろぶち

爐縁(名) 爐の縁のわく。

ろこん

露根(名) 土より外に露はしたる草木の根。

ろあし

艚脚(名) 艚を押したるあさの波の白く見ゆるな云ふ。

ろざう

邏齋(名) 「一」僧の食を乞ひ歩く事。「二」乞食。

ろぎのあやまり

魯魚の誤(名) 似たる文字の誤り易きを云ふ。漢字の管と魚とは字形の類似して居る故に。

ろきつ

盧橘(名) 「一」花橘。「二」夏蜜柑。

ろぎん

路銀(名) 道中の費用。●路用。●旅費。

ろめい

露命(名) 露の如く消は易き命。●もろき命。

ろじ

路次(名) 路傍。

ろじ

鷓鴣(名) 鳥の名。鷓。ち。

ろじつ

英語より出づ。「一」論理學。「二」論理法。

ろじん

路人(名) 往來の人。●よそびき。

ろしゆつ

露出(名) あらはれいづる事。△(動)―露出す。

ろびらき

爐開(名) 「一」十月朔日茶人の家にて風爐を去り地爐を開く事。「二」十月亥の日に巨燧を開く事。

